



～栗田から心・かかわり・絆をつなぐ“ライン”を目指して～

秋田県立栗田支援学校

地域支援通信

令和6年度 第3号

令和6年10月9日発行

一緒に「自立活動」を考えてみませんか ～子どもたちの夢の実現と集団参加を目指して～

自立活動は特別支援学校、特別支援学級、通級による指導の場において、特別に設けられた指導領域で、特別支援学校学習指導要領で次のように定められています。

＜特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月公示）第7章 第1 目標 参照＞

すべての子どもが目指す夢や願い、なりたい姿
個別の教育支援計画で大切にしたい生活のテーマ

すべての子どもが周囲に認められる状況づくり
自分を肯定的に感じる活動、支援、手立て

個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培うこと

すべての先生が子どもをとらえて取り組むこと
個別の指導計画に表される指導目標と手立て

すべての学びで大切にされる
子どもの能動的な学びと主体的に取り組む姿と力
個別の指導計画に表される指導支援

園や学校での指導や様々な教育的な場面で学び難さを示す子どもたちの夢の実現と集団参加を目指して、自立活動の目標をこのようにとらえてみると、どの子どもたちも、安心して学校生活を送るための学級づくりや安心できる集団の中で友達と力を合わせて何かをやり遂げる授業づくりの参考にしていただけるのではないのでしょうか。子どもの「こういう活動ならできるかな」「こんな活動なら楽しめるかな」と、その子どもの生活のテーマに沿って目指す姿をイメージして、学びにくさや環境に目を向ける「自立活動の視点」で行動の背景や理由を考えてみてはいかがでしょうか。子どもの「できる状況」に目を向け、環境を整理したり、好きなことを一つ取り入れたりすることで、どの子どもにも役割を担う機会が増えていきます。周囲に認められる状況をつくり出していく自立活動の取組は、自分を肯定的に感じる経験となり、その子どもを取り巻く様々な人とのよりよいコミュニケーションに広がりをもたらすこととなります。

主体的な学びを支えるポイント

能動的な参加と抽象的な概念の獲得に向けて

- 人と環境の整理、教材の配置による動線の整理
- 行動を促す視覚的な手掛かり

主体的な発言や行動を大切に

- 児童の好きな活動や、成功体験のもてる学習活動と教材

～自分らしく学ぶために、豊かに関わるために～

自立活動の「内容」は、学習指導要領解説（自立活動編）に示されている6区分27項目から個々の児童生徒の実態に応じて必要な項目を選定し、それらを相互に関連付けながら具体的な指導内容を設定することに留意します。指導では、個別指導の形態や効果を考慮して集団を構成して指導することも考えられます。子ども一人一人に必要な自立活動の指導内容を明らかにし、個別の指導計画に記載することが重要です。

今回は、本校小学部における実践（儀式への参加、朝の会の活動での着席の定着、係活動）について紹介します。

自立活動の視点を取り入れた実践例の紹介 ～集会や儀式への参加につながる朝の会での取組～

対象児童の実態と支援目標

〔実態〕小学部4年生。タブレット端末や好きな絵本、映像などを用いた好きな活動には一定時間集中して活動できる。初めての場所や活動に対し苦手意識があり、見通しをもって落ち着いて活動することが難しい。昨年度、学部や全校の集会や儀式の際は、体育館の壁際に持参した机を置き椅子に着席して、好きな本やタブレット端末で動画等を見ながら参加（場を共有）していた。

〔保護者及び担任の願い〕

卒業式（2年後）では、学年の同じ列で椅子に座って参加してほしいなあ。
自分の役割（出番）が分かり、卒業証書をもらいに行けるといいなあ。



〔支援目標①〕 集会や儀式では学年の列に椅子に座って参加する。

〔手立てを考えるキーワード〕 : 初めての場所や騒々しい場所が苦手、不安

- まずは慣れた教室で椅子に座る経験を増やそう。
- 同じ活動を繰り返し設定できる朝の会を活用しよう。
- 静かな環境下で本児の好きな活動を取り入れて気持ちの安定を図ろう。



〔有効だった支援の手立てと児童の変容〕

・朝の会で教師が横に座り本児が椅子に座る経験を短時間ずつ重ねた（教室の隅に座り込むことが多かった）



・クラス全員が教室の隅へ椅子とホワイトボードを移動し、朝の会を行った



・その場で椅子に座ることが増えてきた。



・徐々に朝の会を本来の場所（教室の中央）で行うようにした



・抵抗なく座れるようになってきた。

・他の教室や体育館での活動の際は、集合時間より15分ほど早く、移動先が静かなうちに本児が移動し、椅子に座って好きな本を見る時間を十分に確保した



・後から体育館等に人が集まっても抵抗なく座っていられるようになった。



・先に移動しなくても他のみんなと一緒に移動しても抵抗なく体育館に入り、椅子に座っている。

・「集会がはじまるから絵本は終わりだよ。」と言うと絵本を教師に返すことができる。

椅子から立ち上がろうとしたときは、教師が手をつないで「座るよ」と言葉を掛けると、椅子に戻って座ることができるようになってきた。

・教師の言葉掛けに対し、教師の方に顔や視線を向けたりすることも増えてきている。

椅子に座って活動に参加することができたので、次のステップとして・・・



〔支援目標②〕 朝の会で自分の役割（係）が分かり、目的意識をもって参加、活動する。

（給食の献立発表で食べ物カードをホワイトボードに貼る係活動に取り組んでいたが、教師の支援が必要）

〔手立てを考えるキーワード〕：「一人で取り組める活動」「絵本に興味あり」

→ 「おすすめの本の紹介」コーナーを新設してみよう。



〔有効だった支援の手立てと児童の変容〕

・朝の会に「おすすめの本の紹介」というコーナーを新設（絵本への興味の高さや集中力を活用）
（2冊の本から選んだ一冊を所定のボックスに入れ、みんなに紹介する係）



・絵本を選び、紹介ボックスに入れ、自分の椅子に戻ることができるようになった。



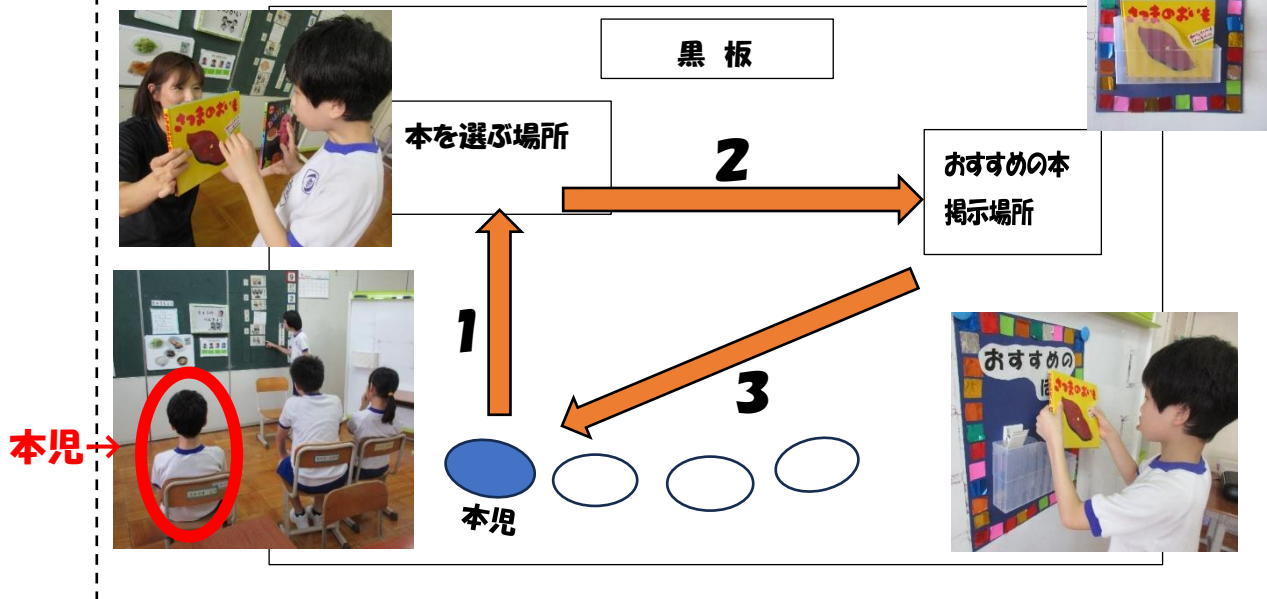
・自分の役割を意識できるよう、教師が2冊の本をもって提示し誘導している。

教師が本児の視界に入りやすいように絵本を提示したり、必要に応じて「どっちの本がいいですか。」と言葉掛けをしたりする。



・一連の活動が分かり、自分の役割（係）を学級の中で行い集団活動に参加している。

「おすすめの本の紹介」時の児童の動線



友達との関わりの中で、一人一人がよさを発揮し、主体的に課題解決しながら自分たちの力で進めていく、小学部の朝の会（日常生活の指導）の実践でした。小学部では、プログラムや1日の予定が分かり、教師や友達と一緒に活動に取り組むこと（知識及び技能）や、集団の中での自分の役割が分かり、係活動に必要な動作で取り組んだり、自分の気持ちを伝えたりしながら活動すること（思考力、判断力、表現力等）、そして、活動を通して、1日の予定に見通しや期待感をもち、自信をもって活動に取り組むこと（学びに向かう力、人間性等）を目指して実践を進めています。

大切にしているのは、活動と参加に様々な学びにくさを示す児童への、自立活動を中心とした指導、支援です。

一人一人の児童の課題となる行動の背景や理由を丁寧に読み解いて、自立活動の視点で朝の会をとらえ直します。

その上で、動機付けを高める学習活動や教材を取り入れたり、主体的な活動と集団参加を促す役割を設定したりしながら児童の学びを支え、児童が自らを肯定的にとらえられる活動により教師、児童相互の関係が豊かに広がっていくことを目指しています。

ドラえもんに学ぶ

～のび太に寄り添うドラえもんの支える力～

○子ども一人一人の「得意なこと」に目を向け、長所を伸ばす

勉強が得意じゃないのび太に、創造力や優しさといった「隠れた強み」を見つけて、そこを伸ばしていこうとするドラえもん。ドラえもんがのび太を責めずに、彼のいいところを大事にしている姿勢は、私たちにも必要な視点かもしれませんね。

○心の成長を支える土台作りをしていく

のび太がうまくいかないとき、ドラえもんはまず彼の話じっくり聞いています。のび太の失敗や悩みにいつも寄り添っています。この「聞く」ということが、子どもとの信頼関係を作る大事な一歩かもしれませんね。

○「自分で解決できる力」を育てる

のび太はよくひみつ道具に頼りますが、最終的には自分で解決しなければならないことが多いです。

子どもが困ったとき、「どうすれば解決できるかな?」とヒントを出して考える機会を作ります。自分に自信をもてるようになるためにも、自分で解決する力は大切です。「待つ」ことは時に難しいですが、見守る姿勢が、子どもの成長を促すと信じて。

○「遊び」は、子どもの創造力を引き出す最高の方法

子どもにとって、遊びは最高の学びの場。遊びは子どもにとって、社会性や創造力を育てるための大切な時間です。ドラえもんとのび太が冒険を通じて新しい発見をするように、子どもたちも自由に遊ぶ中で学びを得ています。ドラえもんとのび太がいつも一緒に遊ぶことで強い絆を築くように、私たちも子どもと一緒に遊びを楽しむことで、心のつながりを築いていきませんか。

○子ども同士のコミュニケーション力を高める

のび太が困ったとき、ドラえもんや友達がいつも助けてくれますよね。助け合いの大切さを学ぶことは、子どもが他者と円滑に関わるための第一歩です。たとえば、子ども同士で課題を解決する機会を作ると、協力する力が自然に育まれます。また、助け合うことで「人の役に立つ喜び」も感じられるようになります。

みんな大好きドラえもん、のび太は何か困ったことがあると、すぐにドラえもんに頼ったり泣き言を言ったりします。ドラえもんはのび太を叱咤激励しながらもポケットから道具を出して、願いを叶えるお手伝いをします。アイテムを通してのび太の長所や優しさや強さを引き出し、のび太に言葉をかけて背中を押し、困難に立ち向かう勇気を与えます。のび太が失敗を繰り返しながらも仲間と共に自立していくように支援するドラえもん、ドラえもんのように、のび太が日常の生活の様々な場面で周囲に認められる状況を考えていくこと、生き生きと毎日を送れるようにすること、まさに自立活動を中心に教育を考えることと同じなのではないでしょうか。

すべての子どもが、自分のよさや可能性をもとに、将来の夢や願いに向かっていけるよう支援していきたいものですね。

(文責 二階堂悟)

相談・見学、障害理解学習等の御希望がありましたら、御連絡ください



秋田県立栗田支援学校

教頭:田中 紀和 教育専門監:牧野 幸枝 地域支援部:照井 真紀子

〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町 10-10

TEL:018-828-1162 FAX:018-828-4720

ホームページ <http://www.kurita-s.akita-pref.ed.jp/>

メールアドレス kurita-s@akita-pref.ed.jp

